

令和7年度 学校評価報告書

学校番号(中15) 長崎市立(深堀中)学校

1 教育目標

共に学び、高め合う、希望あふれる生徒の育成
・学ぶ意欲 ・思いやる心 ・健やかな心身

2 学校経営方針

◎育てたいせい徒像
○自分の意志や考えを表現できる生徒 ○場に応じて自分で考え行動できる生徒○自分も周りも大切にできる生徒
◎目指す学校像
○一人一人を大切にする学校 ○生徒の可能性を広げる学校 ○家庭・地域との連携を深め、安心と安全を保障できる学校
◎支える教師像
○生徒に寄り添い、よさを伸ばす教職員 ○生徒と共に学び、向上する教職員 ○生徒や保護者や地域の方と共に汗を流せる教職員

3 重点目標

○一人一人を大切にする授業 ○一人一人を大切にする心の育成
○一人一人を大切にする特別支援教育の充実 ○一人一人を大切にする環境整備
○一人一人を大切にする安全指導と体力向上 ○一人一人を大切にする働き方改革

4 自己評価

領域	項 目	質 問 内 容	アンケート結果			分析及び改善策
			(肯定的割合・%)			
			児 童 生 徒	保 護 者	教 職 員	
学校経営	教 育 目 標	教育目標を達成している	88.1	74.6	100	学校教育目標の目指す生徒像への取り組みは、三者とも高い。学校全体の雰囲気は生徒は高くなっているが、保護者・教職員が低くなっている。毎日生徒指導が必要な学校の状況により評価が下がった。組織運営・業務改善は、昨年度より向上している。しかし協働性が醸成されていないところがみられる。
	学 校 の 雰 囲 気	明るく楽しい雰囲気である	85.1	57.1	21.4	
	組 織 運 営	校務分掌は責任体制が明確で、適切に機能している			71.4	
	業 務 の 改 善	校務の縮減・効率化等、業務の改善を推進している			78.6	
心の教育	生活・生徒指導	ルールやマナーを身に付けている	79.1	63.5	14.3	生徒の評価は、ほとんどの項目において高い評価を得た。また、生徒の悩みや相談に関して高評価を得ていることから学校の相談体制が整っていることを示唆している。ルールやマナーについては、生徒は高いものの保護者・教職員は、さらなる改善の必要性を感じている。あいさつは、保護者・教職員が不十分さを感じており、生徒会のあいさつ運動などの取組を充実させるとともに、毎日の生活で指導を確実に言い日常的にできるようにしていく。人権教育・平和教育は各教育担当者を中心に、日々の学校生活が人権平和教育を意識したものになるように職員の意識の変革を行い、生徒が安心した学校生活が送れるようにしていきたい。
		挨拶をよくしている	86.6	46	42.9	
		「あ・は・は運動」を知っている(小学校のみ)				
		教職員は悩みや相談に親身に対応している	85.1	76.2	85.7	
	いじめ防止対策	学校はいじめ防止のための対策をとっている	80.6	66.7	100	
	人 権 教 育	生命や人権を尊重しようとする心が育っている	88.1	73	42.9	
	平 和 教 育	平和の大切さを感じ、その思いを発信しようとしている	89.6	66.7	57.1	
	特別支援教育	学校は教育的ニーズに応じた教育を行っている	83.6	69.8	78.6	
確かな学力	特 色 あ る 学 校 づ く り	伝統や校風、地域の実態に即した教育を行っている	85.1	73	64.3	わかりやすい授業に対しては生徒・保護者は高評価を得ている職員もそれぞれが教材研究をしっかりと行っており、努力をしているが謙虚に受け止めている。「家庭学習の習慣化」に家庭で取り組んできたものの、調査結果はまだまだ厳しい状況である。授業において学習者用PCを使った活動やAIドリルを活用した個に応じた学習方法の展開を行うことで、学力向上を図っていく。ふるさとのよさを生かした教育は実施をしている。
	学 習 指 導 ・ 教 育 課 程	わかりやすい授業を行っている	94	73	78.6	
		家庭学習の習慣が身に付いている	71.6	54	7.1	
	キャリア教育	将来の自立に向けて適切に指導している	85.1	73	78.6	
		長崎のまちや自分の住んでいる地域が好きである	88.1			

健やかな体	保 健 ・ 衛 生	衛生管理に努め、健康に関する教育を行っている	91	69.8	85.7	健康教育について生徒の評価は高いものの保護者・教職員は、体力向上に関しての評価が低い。基本的な生活習慣が確立しないといけないが、「早寝・早起きと毎日の食生活が家庭において十分なされていないところが見られる。学校保健委員会においての活動を行っているが十分に浸透していない。食育については、給食指導は本校の大きな課題のため学級で取り組みを行っているが残食は減っており今後の取り組みを行っていく。
	体 力 向 上	早寝・早起き・朝ごはん(基本的な生活習慣)が身に付いている	85.1	69.8	50	
		体力向上に努めている	79.1	66.7	50	
	食 育	食に関する教育活動を行っている	83.6	79.4	92.9	
信頼される学校	安 全 管 理	児童生徒の安全に気を配っている	92.5	79.4	85.7	ほとんどの項目で肯定的な評価であり、今後も油断せずに取り組んでいきたい。地域との連携については、様々な地域行事が開催された。生徒の参加が少ないため地域との連携を強くするため積極的な参加を勧めていきたい。
	情 報 提 供	学校の状況は通信やHP等で知ることができる	85.1	87.3	100	
	P T A ・ 地 域との連携	学校はPTAや地域との連携がとれている	56.7	90.5	100	
	職 員 資 質 向 上	研修が充実し、資質が向上している			85.7	
教育環境	環 境 整 備	教育環境が充実し、整備されている	79.1	65.1	71.4	備品等の整理を行った、安全点検後改修を実施し、さらなる教育環境面での充実を図っていく。
	職 場 環 境	学校は働きやすい職場づくりに積極的に取り組んでいる			71.4	

5 自己評価のまとめ(成果・課題・対策等)

学校運営については、三者ともに教育目標の項目が高い。各教師が教育目標の具現化に向けて積極的に考え取り組んでいることが数値を高めている。学校の雰囲気は学校全体の落ち着きのなさから明るく楽しい状態でないと保護者・教職員は考えている。ルールやマナー、あいさつについては生徒は数値が高いものの保護者・教職員は不十分ととらえている。判断基準の相違によると思われるが、日々の生活指導を根気強く行い、日頃の授業や生徒会活動のあいさつ運動等を実践していくことで、気持ちよく笑顔であいさつができる生徒を育てていきたい。また、マナー等の順守についても同様のことがいえる。人権教育、平和教育は生徒は高い、保護者・教職員は低い、100%を目指していきたい。あいさつとともに本校のもう1つの大きな課題が家庭学習への取組である。保護者・教職員は低い数値であるとともに生徒の割合が高いのは、生徒への浸透で不十分であるともいえる。保健・衛生については、今後も熱中症、各種感染症の予防を中心に徹底した取組を行っていききたい。環境については、保護者の割合が低いのは、清掃等の不十分さ(用具や時間)や施設の不十分さが考えられる。これも生徒会の整備部の活動と連携して、組織で取り組んでいく。

6 学校関係者評価

- 全校生徒に対しての不登校生徒の割合が多いように感じる。
- 学校評価の評価項目について、生徒は甘くつけ保護者は厳しくつけている。両者の受け取り方に違いがある。子どもと保護者との会話をしてほしい。その中で学校の様子を話すこともある。また、子どもが親に関わることで評価の隔たりはなくなるのでないだろうか。
- 「一人一人を大切にすることの育成」という目標で子どもたちを育てているが、「心の育成」を充実させるために特定の生徒への個別の指導を継続的に行ってほしい。
- 「早寝・早起き・朝ごはん」の項目で朝ごはんを食べている割合、家庭の状況により食べてなかったりすることがある。一日の生活の源となるものでしっかりと朝食がとれるような働きかけてほしい。
- 家庭学習に関しては、学校からの宿題のみが家庭学習ではなく自主学習や復習も家庭学習ということを学校からも指導してほしい。

7 対策等の見直し(学校関係者評価を受けて)

- 不登校生徒への対応については、学年担当や学級担任を中心として家庭訪問を実施したり、SSWやSC、別室支援員と協力をしながら別室への登校、リモートの授業、メタバース登校等の方法で生徒の学習機会の提供を学校として行っていく。
- 学校のおやすみのお知らせとして学校だより等をtetoruやホームページによる配信をする。「食事を家族みんなでとり、会話をしていこう」という呼びかけを行い、子どもと保護者の会話の機会の設定を、生徒へは学活で保護者へはPTAで啓発を行い、保護者が学校の状況を把握できるような取り組みを行っていききたい。
- 毎日の「早寝・早起き・朝ごはん」の取組みを学校とPTA保健部の共同で「朝ごはんの大切さ」について年間の活動の中に取り入れ、学校では「朝食の大切さ」の啓発、家庭では「子どもへの朝食の準備」を行うような取組を行う。
- 家庭学習内容が理解できていないため、学校で作成の「学習のしおり」の内容の確認を行い、年度当初に家庭学習の方法を生徒に指導し、家庭学習の充実を図り学力向上に努めていく。

※「4 自己評価」の「項目」欄には、領域毎に空欄を設定している。ここには、重点目標に即し、学校独自の「評価項目」並びに「質問内容」を追加することができる。
 <参考例> 読書活動、豊かな体験活動、部活動 等

※「4 自己評価」のアンケートは、4段階で回答するようになっているが、そのうち上位2段階を肯定的回答ととらえ、その割合(整数値のみ)を集計する。